

ポスター

[PA1～PA19] ポスター

2018年6月22日(金) 15:00 ～ 16:00 ポスター会場 (3階・中会議室302)

[PA19] 医療面接実習における対話記録を用いた効率的振り返り学習支援方式

小寺 祐生（高知工科大学 情報学群）

医療面接実習における対話記録を用いた効率的振り返り学習支援方式

小寺 祐生^{*1}, 敷田 幹文^{*1}, 八木 邦公^{*2†}

^{*1} 高知工科大学 情報学群

^{*2} 金沢大学 医薬保険研究域医学系 †富山大学付属病院

Efficient review with communication records of medical interview training

Yuki Kodera^{*1}, Mikifumi Shikida^{*1}, Kunimasa Yagi^{*2}

^{*1} School of Information, Kochi University of Technology

^{*2} Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University

†Toyama University Hospital

抄録: 近年, 大学の医学教育では授業の一環として, 外来診察を想定した医療面接実習が行われている。ここでは実習生が医者役と評価役を順に担当しながら面接を行っており, 面接終了後に指導医が実習生に助言を行うという流れで行われる。しかし, 指導医が実習生 1 人に助言できる時間は限られており, 満足に実習を経験できていないのが現状である。この課題については, 我々の先行研究により指導医がおらずともグループ内で自習が容易に可能となったが, より効果的に学習するためには自習後の自身の振る舞いの振り返りが重要である。しかし, 面接実習は終始動きが少なく最初から音声を手掛かりにして必要シーンを探すのは非常に手間が掛かり非効率である。そのため, 本論文では対話記録を用いた効率的な振り返り学習支援方式を提案した。本提案方式を用いることで項目毎の振る舞いの確認が容易になり, 実習生への教育の効率化を図ることが可能である。

キーワード 医学教育, 医療面接, 臨床実習, 振り返り学習, 教育支援

1. はじめに

近年, 大学の医学部では実際の外来診察を想定した医療面接実習が行われており, 実施時間数は 2010 年を境に増加傾向にある[1]。実習では学生数人のグループが医者役と評価役を順に交代しながら面接を行い, 実習終了後に指導医から助言を聞くことができる。しかし, 指導医が 1 人の実習生に対して助言できる時間はごく僅かである。また実習生 1 人あたりの実習回数は非常に少なく指導医の負担も大きいという課題が挙げられる。この課題を解決するために, 我々は先行研究[2]により指導医がおらずともグループ内である程度の自習が可能な方式を提案した。

また, 先行研究に付け加え, 自身の振る舞いの振り返りをビデオ等で行うことで, より高い学習効果が望めることが期待できる。しかし実習結果を記録してはいるが, 面接実習では終始動きが少なく, 最初から音声のみを頼りに振り返り学習を行いたいシーンを探していくのは非効率である。そのため, 本研究では医療面接実習終了後の自習に着目し, 対話結果を用いた振り返り学習支援方式を提案し,

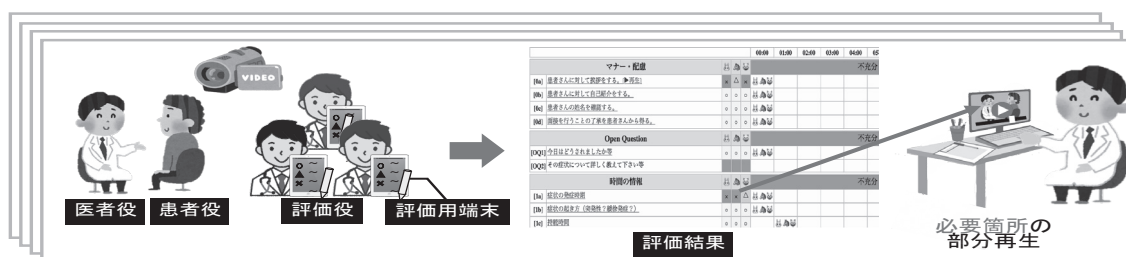
その有用性について評価を行い, 考察を述べる。

2. グループ内問診評価支援システム

我々が提案したグループ内問診評価支援システムでは, 実習生が模擬患者に聞いた質問項目を評価役の他の学生が評価を行いシステムに入力する。入力された評価結果は時刻と共に記録され, 評価をまとめた結果が面接終了直後に表示される。また, 本人や指導医がこの結果を参照することによって, 面接中での対話の流れを時系列で把握することが可能である。

3. 対話記録を用いた効率的振り返り学習支援方式の提案

本提案方式の概要図を Fig.1 に示す。2 章で述べたように, 評価役が入力した時刻が問診項目ごとに記録されている。入力時刻は評価役によって異なるが, 各評価役の時刻の中央値をその問診項目の代表値とする。面接実習の様子はビデオ等によって撮影するが, 振り返り学習の際には面接開始から終了までの全てのシーンを再生する必要はなく, 確認したい項目の評価時刻の 10 秒前からビデオの再生を開始する。



4. 実験および結果

Table.1 実習生による評価

Table.2 指導医による評価

5. 考察

QT1 より、指導医は実習前の自習にビデオを用いて振り返りを行うことが教育に有用であり、自身の指導に当てる労力の削減につながる(QT4)と考えている。実習生もビデオによる振り返りが学習に有用(QS1)と考える一方で実際に確認したいシーンは全体の 5 割程度(QS2)であり、特定の項目に限られている。そのため特定箇所の部分再生が可能な本提案方式を用いることで指導医が望む教育が効率的に実現できると考える。

QT2 より、実習前に指導予定の学生の状況を把握できることは指導に有用であると指導医は考えている一方で、実際に確認したいシーンは 3 割程度(QT3)であることが分かった。そのため関心のあ
る項目を把握することで、貴重な対面での指導時間をより重要な箇所に割くことができ、指導の効率化を図ることが可能である。

5.3 実習生全体の傾向把握

6 まとめ

謝辭

参考文献